

鬼怒川の探険

田 林 明

夏休みも残りわずかになった8月28日、小学校4年生の二男が朝のサッカーの練習から帰るのを待ちかまえて、家族そろって車で出発した。わが家の近くで利根川に合流している鬼怒川を上流にさかのぼりながら、川の流れや河原、川の周囲の様子がどのように変化していくのか観察してみようというのである。茨城県の守谷町から水海道市、石下町、八千代町、そして栃木県の二宮町、塩原町を通して藤原町の川治ダムに到着したのは午後7時近くであった。

夏休みになってまもなく、中学校1年生の長男が「統計グラフの作成」という宿題にふさわしい題材を教えてくださいとってきた。相談の結果、常総ニュータウンをかかえ近年の発展が著しいわが守谷町の変化を、人口の推移や就業構成、人口ピラミッドなどから調べてみようということになり資料の収集を手伝った。長男は目標が定まったので、クーラーをきかせた部屋で黙々と作業を進めていた。学校で好きなのは体育と図工と給食だという二男は、長男の仕事が進むにつれて、なにやらうらやましそうにしているの、「何かやってみるか」と水を向けたところ、冒頭のわが家の「鬼怒川の探険」となったわけである。

あいにく翌日から私は出張ででかけたので、家内がしかつたり、なだめすかしたり悪戦苦闘して、8月の最後の3日間で写真や観察事項を模造紙7枚ほどにまとめさせ、それを始業式の日にもたせてやることができた。ところが数日後、その結果をそっくり家に持ち帰った二男は、「郡の作品展に出すから模造紙1枚にまとめるようにと先生が言っていたよ。」と伝えるではないか。二男は親が何とかしてくれるだろうとゆうゆうとしているし、家内は自分の番は終わったという顔をしているし、しょうがない、こんどは私が写真を張りつけたり、主要な部分は鉛筆で下書きをし、本人にはペンやマジックインクでなぞらせたりして、これも四苦八苦してまたそれを学校へもたせてやった。さらに数日後、「郡で金賞をとったから、利根町の中央公民館に見に行くように」とい

う電話連絡が担任の先生からあった。

郡の作品展では、各学校の先生や親が徹底的に指導したり、手伝って作りあげたと思われる立派な作品が多くみられ、親の手がだいぶ入ったから受賞したのだろうという負目もいっぺんにふっとんでしまった。金紙のはってある作品の前で家族の記念撮影をして、意気揚々とひきあげてきた。

ところが、さらに何日かたって県の作品展にもっていくから、ファイル形式にまた作り直すように、学校で指示されてかえってきた。いささかうんざりしたが、ここであきらめるわけにはいかない。今度は家族全員で手伝って、再度もたせてやった。三歳の三男まで「きぬがわ、きぬがわ」と言いながら走りまわっていた。

ちょうど10月に仙台で日本地理学会の秋の大会が開かれていた時であったが、懇親会から宿へ帰ると家から電話があったという伝言があった。誰か病気がケガか、と思ってあわてて連絡すると、例の作品が県で銀賞になったとのことであった。帰宅して、金賞以外は全員銀賞であると聞いていささかがっかりしたが、それでも二男の部屋には、立派な銀賞の賞状がかざられることになった。

それ以降わが家では、川をみると無関心ではおられなくなる習性がついてしまった。二男は最後は親に引っ張られながら、しぶしぶやったのであるが、周りからはめられ少し自信がついたせいか、2学期の通知表の成績はだいぶ良くなるというおまけもあった。なによりも、本人にとって忘れられない思い出になったようである。

子供の夏休みの自由課題をみると、理科や図工、そして読書感想文と相場が決まっている。今回の体験から、私どもの地理学に関係のある題材も、うまく取り上げられ、よい指導がなされるならば、地理学への関心もずっと広がるのではないかと思った。仙台の日本地理学会秋季大会の際に近くの博物館で見た、中学生を対象とした土地利用図作成のコンクールは、そのような試みの1つとして、強く印象に残るものであった。